

光星、青森山田 闘志燃やす



センバツ出場決定を受け、中村良寛校長(手前左)の激励を受ける八学光星ナインら
 =26日午後3時45分ごろ、八戸市

夏春の連続出場となる八学光星は、充実した投手力を駆使し、全国の強豪に挑む。新チームは、昨夏の甲子園を懸念するエース左腕洗平比呂や最速148km/hの速球を誇る左腕岡本琉斐ら、2年生3人がけん引。両左腕に、秋季県大会のマンツドで経験を積んだ、第3の左腕、森田智晴が加わり、投手陣は厚みを増す。

課題は攻撃力だ。東北大会決勝では打線がつかず、学法石川(福島)に1-0で薄氷の勝利。決勝では青森山田にノーヒットノーランを喫した。

「バッティングの面で弱いなと感じた」と振り返る砂子由陽主将。大会後、全員がウエイトトレーニングなどで体を大きくし、スイングスピードは増したという。

砂子由主将は「各選手の打球に強さが出てきている」と強調。投手陣を引っ張る洗平も「テニシングなどの変化球の精度を上げよう」と練習してきた。今後はストロークの威力ももう少し上げていきたい。

春夏合わせた回の甲子園出場経験がある同校。2011年夏、12年春夏と3季連続の準優勝を果たしたが、優勝は一度もない。砂子由主将は「目標は全国制覇」と闘志をみせつけた。

課題は攻撃力

(千葉達也)

光星厚み増す投手陣

センバツ出場決定

青森山田と八学光星のセンバツ出場が26日、決定した。共に、青森県内で長年に渡り実績を築いてきた強豪校。青森、東北地区の代表として甲子園に立つ選手たちは、冬場の厳しい練習に励みながら、静かに闘志を燃やす。

【1ページに本記】

同日は光星の仲井宗基監督と、青森山田の兜森崇朗監督が報道陣の取材に応じ、現在の心境や甲子園に向けた意気込みを語った。

(取材班)

秋以降の八学光星の戦績

| 大会名 | 試合 | スコア | 対戦校 |
|----------------------------------------------|------|------|----------|
| 秋季県大会 2023年9月9日 ~10月1日/八戸市 市長球場ほか | 2回戦 | 11-1 | 明の星 |
| | 3回戦 | 11-0 | 大湊 |
| | 準々決勝 | 10-0 | ウルスラ |
| | 準決勝 | 8-0 | 弘前南 |
| 決勝 | 4-7 | 青森山田 | |
| 秋季東北大会 23年10月16日~ 23日秋田市でまち スタジアムほか | 2回戦 | 5-2 | 仙台一(宮城) |
| | 準々決勝 | 8-1 | 日大山形(山形) |
| | 準決勝 | 1-0 | 学法石川(福島) |
| | 決勝 | 0-3 | 青森山田 |

秋以降の青森山田の戦績

| 大会名 | 試合 | スコア | 対戦校 |
|------------------------------------|------|------|----------|
| 秋季県大会 | 2回戦 | 14-2 | 八戸工 |
| | 3回戦 | 8-1 | 弘前東 |
| | 準々決勝 | 8-3 | 工大一 |
| | 準決勝 | 3-1 | 弘学聖愛 |
| 決勝 | 7-4 | 八学光星 | |
| 秋季東北大会 | 2回戦 | 9-8 | 羽黒(山形) |
| | 準々決勝 | 5-1 | 鶴岡東(山形) |
| | 準決勝 | 4-0 | 一関学院(岩手) |
| | 決勝 | 3-0 | 八学光星 |
| 明治神宮大会 23年11月15日~20日 明治神宮野球場 | 準々決勝 | 2-3 | 星稜(石川) |

第96回 選抜高校野球大会 出場校一覧

| 北海道 | 近畿 |
|--------------------|-----------------|
| 北海 3年ぶり④ | 近江(滋賀)2年ぶり⑦ |
| 東北 | 京都外大西(京都)18年ぶり⑦ |
| 青森山田(青森)8年ぶり③ | 国際(京都)3年ぶり② |
| 八戸学院光星(青森)5年ぶり① | 京大藤原(大阪)5年連続⑤ |
| 学法石川(福島)33年ぶり④ | 大阪徳園(兵庫)2年連続③ |
| 関東 | 久(和歌山)初出場 |
| 常総学院(茨城)3年ぶり① | 中国 |
| 作新学院(栃木)2年連続② | 創志学園(岡山)7年ぶり④ |
| 高崎健康福祉大高崎(群馬)2年連続⑦ | 広陵(広島)3年連続② |
| 中央学院(千葉)6年ぶり② | 四国 |
| 山梨学院(山梨)3年連続⑦ | 阿南光(徳島)32年ぶり② |
| 東京 | 高知(高知)3年連続② |
| 関東第一 8年ぶり⑦ | 九州 |
| 北信越 ※神宮大会枠1校を含む | 東海大福岡(福岡)7年ぶり③ |
| 星稜(石川)2年ぶり⑥ | 熊本国府(熊本)初出場 |
| 日本航空石川(石川)4年ぶり② | 豊(大分)3年ぶり② |
| 敦賀気比(福井)4年連続① | 神村学園(鹿児島)9年ぶり⑥ |
| 東海 | 21世紀枠 |
| 豊川(愛知)10年ぶり② | 別海(北海道)初出場 |
| 愛工大名電(愛知)12年ぶり② | 辺(和歌山)76年ぶり③ |
| 宇治山田商(三重)16年ぶり② | ○数字は出場回数 |

八学光星・仲井監督



最低でも三つ勝つ

「選抜出場が決まった。春は5年ぶりだが、甲子園には何回でも行きたいし、行かせていただけで、改めて幸せと感じている。チームの強みは、今年夏の甲子園を経験している洗平(比呂)、岡本(琉斐)を中心に、投手力のチームだと思う。また、例年になく動力を使える選手たちがそろっている。リネオアルした光星の野球を展開できれば。」

まずは負け越しを取り返すため、最低でも三つは勝たないと。ただ、一戦一勝で次がある。自分たちでできることを、精いっぱい力を発揮したい。

青森県から出場する。青森のレベルが非常に高い競技だと思える。昨秋、青森山田には県大会、東北大会と三度敗れた。甲子園でリベンジと大力は、決勝まで行かなければいけないが、お互い刺激し合ってもみられている。

(聞き手・松橋博徳)

センバツに向け、意気込みを語る八学光星の仲井宗基監督(八戸市)。

「甲子園でどう戦う。東北のチームは、大会までの調整が非常に難しいと思う。春は11度目の出場になるが、8勝10敗と負け越しており、なかなか勝つことが大変な大会。バットも新規格になるし、違った形の野球をつくっていくかなければいけない。勝つことを目標に東北の代表として恥ずかしくない、模範になるようないい野球をやりたい。」

「大会の目標は。」